1 この科目の構成について

教　　科	国語科	科　　目	古典Ｂ	単　　位	３単位
対象コース	カレッジコース文系（ＡＣ）	対象クラス	３年２組		
使用教科書	精選　古典Ｂ（大修館書店）				
使用副教材	完全傍訳　やさしくくわしい古典文法（尚文出版） 新明説漢文（尚文出版） 重要古文単語３１５（桐原書店） センター試験実戦問題集				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標　　―この科目を学習して何を身に付けてほしいのか―

２年次から引き続き、既習の文語文法・句法を使いこなして、古文・漢文を講読する能力を養います。２年次に学習した教材よりも、長く、難解な文章も講読します。センター試験などの大学入試にも対応できる読解力を養っていくことが目的です。

学 習 内 容　　―この科目で学習する大まかな内容―

以下の二つの分野を学びます。
（１）古文…既習の文語文法を使って、古文を読み解く力を身につけます。さらに、センター試験に対応した語彙力を身に付けます。
（２）漢文…既習の句法を使って、漢文を読み解く力を身につけます。さらに、センター試験に対応した語彙力を身に付けます。

学 習 方 法　　―この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか―

（１）学校
授業においては「読解力」を身につけることが最も大切です。文章の内容を読み取り、思考し、筆者が伝えたかったことやその当時の社会的背景までの読み取りをします。
（２）家庭
家庭学習の時間は、一学期は授業の予習と既習事項の暗記と語彙力の養成にあててください。知識を定着させる場、それが家庭学習です。二学期以降はそれに加えて、問題演習の復習をしてください。

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法　　―何を使って評価するのか―

（１）定期考査→年４回、定期考査を実施します。授業での学習内容を中心に出題します。
（２）長期休暇中の課題→古典・漢文の演習問題を宿題として課します。
（３）学期中の課題→授業理解の確認のための宿題を課します

評価における定期考査の割合
７０％

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点　　―この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか―

（１）　関心・意欲・態度
問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。

（２）　思考・判断
合理的であるか否かが評価の軸となります。恣意的な思考は評価しません。

（３）　技能・表現
口頭・文章ともに、受け手に配慮した簡明な表現であることを重視します。

（４）　知識・理解
定着度だけではなく、知識を得ようとする日常の取り組みを評価します。

5 この科目の学習計画について

年間学習計画　　―この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか―				重視する評価の観点			
期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知
1	4	古今著聞集 『源義家、衣川にて』	本文の読解を通じて、古文特有の語を理解し、合わせて必須の文法事項の総復習をします。また、説話文学の魅力に触れ、現代まで読み継がれている要素やそれが生み出された背景などについても考え、古典文学に一層親しむ態度を育てます。	●		●	●
	5	逸話と寓話 『長安何如日遠』 『不死之薬』	漢文の逸話や寓話に見られる機知に富んだやりとりを学び、その魅力を理解します。また発言や行為の内容を読み取り、その生き方や考え方を理解し、自らのものの見方、考え方を深める契機とします。道徳教育を実施	●	●	●	●
	6	枕草子 『うれしきもの』 方丈記 『行く河の流れ』	わが国古来の随筆文学に触れ、その魅力を味わいます。語句・意味を正確に理解し、作者の機知に富んだ発想や柔軟な思考の展開の様子を鑑賞します。また、方丈記においては和漢混交帯の簡易な文体を読解し、作者の無常観を理解し、隠者文学の生まれる背景、隠者長明の生活についても理解を深め、生徒の人生観を豊かにしていく契機とします。道徳教育を実施	●	●	●	●
	7	大鏡 『三船の才』	歴史物語としての特色である、簡潔で力強い文章を読み、作者の的確な描写と批判的な態度を読みとる。また、敬語の用い方から、登場人物の関係を正しく捉える。和歌の修辞の確認をする。	●	●	●	●
2	8	史伝 『荊軻』	長文の漢文に読み慣れ、読解・鑑賞する能力の増進を目指します。『史記』の文章表現の妙味やそこに用いられている故事成語などを理解し、言語感覚を豊かにします。	●	●	●	●
	9	紫式部日記 『和泉式部と清少納言』	「文学」としての日記文学に触れ、多様な語句の解釈や、女流作家ならではのきめ細やかな感覚的な表現を理解し、作者の考えや心情の理解を目指します。また、『蜻蛉日記』『和泉式部日記』にも合わせて触れ、その歴史的な背景や、『枕草子』『源氏物語』などの作品にどのような影響を与えたのかも合わせて学びます。	●	●	●	●
		源氏物語 『若菜上』	平安時代の仮名文学の代表的作品である源氏物語に触れ、読解・鑑賞する諒力の増進を目指します。複雑な文体の文章を、語句の意味や文法事項を正確につかみながら正しく読解します。場面の状況や人物の心理を正確に捉え、微妙な心理の動きを理解します。	●	●	●	●
	10	文章 『帰去来辞』 『師説』	中国の文学作品に親しみその文学的な表現を理解します。漢文特有の言い回し句形に習熟し、正確に読解する態度を養います。また、作者の思想や人生に対する深い洞察を読み取り、その人生観や人間性についても理解を深めます。道徳教育を実施	●	●	●	●
	11	入試対策問題演習	副教材を用いた演習を行い、入試に対応できる読解力の完成を目指します。ただの答え合わせになることのないよう、予習、復習を徹底し、解答作成までの手順を身につけます。	●	●	●	●
3	12						
	1						